

- 自ら考え、表現できる人（創造）
- 仲間とともに高め合える人（共生）
- 心身ともにたくましい人（健康）



地域みなさん、ありがとうございます



雪道に続く善意の細道

先週末から記録的な大寒波到来（たいかんぱ・とうらい）の予報が流れ、1月13日（金）の朝は通学路が雪で覆（おお）われて小学生・中学生の登校が心配されました。登校時間に、私が国道118号線（石川街道）に出てみると、地域の方5、6名が歩道の雪をかいて道を作ってくれていました。さらに、朝日田の信号のある交差点まで歩いてみると、すでに雪をかいて、終わったところもあることに気づきました。「今やっている人のほかにも、多くの方が雪かきをしてくれたのだなあ。」と感謝の心で体が温まってくるようでした。地域みなさんが、歩行者のために、おそらく小・中学生が歩きやすいように雪をかいてくれた細道は、道路の両側に長くつながっていました。



16日(月)の午後の様子

1月16日（月）の朝は、もっと心配されました。この日は、地域の方の姿は見られませんでした。私は、13日（金）の時以上に感激しました。すでにほとんど除雪されていたからです。しかも、この日は小学校前の歩道橋にも雪がなく、階段部分は安全な状態でした。土曜日、日曜日とかなりの雪が降り、日曜日の夜半から翌朝までは雪が止んでいましたから、地域みなさんは日曜日に、もしかすると土曜日にも雪をかいてくれていたのではないのでしょうか。

私は知ることができませんでしたが、学校前の国道118号線沿い以外の場所でもこのような「善意の細道」があったのではないのでしょうか。地域コミュニティが弱くなったと言われますが、三小・三中学区では、子どもたちを地域で育てるという意識も、地域コミュニティの意識も高いことが、このことからわかります。

登校する三中生を見ていて、考えたことが二つあります。一つめは、お世話になったと感じたら「ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えられるようになってほしいということです。保護者の皆様、是非（ぜひ）このことを家庭の話題にしてください。そして、地域の方々にはっきりした声でありさつができるよう、子どもたちにご指導ください。それが、子どもたちの自覚を高め、この地区の担い手として地域コミュニティをさらに強固（きょうこ）なものにしていくのだと思います。

また、スリッパしながら通っていく車も少なくありませんでした。交差点では、滑（すべ）って転倒（てんとう）する小学生が何人かいました。二つめは、危なそうに見える小学生に気づいたら、その手をひいて横断歩道を渡らせてほしいということです。それが、さりげなくできる三中生だったら素晴らしいと思いませんか。そうした経験をした小学生が、中学生になって今度は小学生の手をひいて横断歩道を渡るようになる、そんな「善意の循環（じゅんかん）」を実現したいものです。これからも積雪・凍結路面の朝があるでしょう。自らが車の動きに注意しながら、小学生の手をひいて横断歩道を渡る中学生の姿を見たいというのが、この冬の私の願いです。



最後になりますが、私の地域の方々に対する感謝の気持ちを伝える術（すべ）がありません。機会を見て、保護者の皆様から地域の方々に伝えていただけましたら、たいへんありがたく存じます。

第2回漢字検定合格者

第2回も中学生と一緒に小学生も受験し、たくさんの方が合格者が出ました。第3回は1月13日(金)に実施され、中学生29名、小学生36名、計65名受験しました。受験者の数に比例して、合格者も増えています。

準2級

西牧 美緒 (みいな) ③ 五十嵐美理 (みさと) ③

3級

小林結季加 (ゆきか) ③ 山田 大生③
小針 慶也 (けいや) ③ 鈴木 彰馬 (しょうま) ②
後藤 唯花 (ゆいか) ②

4級

加藤 優花 (ゆか) ② 鈴木 優花 (ゆうか) ②
海端 彩那 (うみはた・あやな) ② 宮本麻依子①
遠藤 帆華 (ほのか) ①

5級

伊藤 李歩 (りほ) ② 猪狩 颯 (そう) ①
古川 輝 (ひかる) ① 渡辺華保乃 (かほの) ①

7級

海村 瑠依 (るい) (4) 坂田 瑠捺 (るな) (4)

8級

菅野まふゆ(5) 榎本 夕花 (えのもと・ゆうか) (4)
小川 晴哉 (はるや) (4) 大竹 愛矢 (あや) (3)
吉田 悠杏 (ゆうあ) (3)

9級

菅野ありあ(3)

10級

榎本千愛 (ちさと) (2) 山本竜輔 (りゅうすけ) (2)

まず、より多くの受験者を

第2回英語検定合格者

英語の検定試験の結果が、今後ますます重要視される動きにあります。まず、より多くの生徒に検定試験にチャレンジしてほしいものです。「落ちたら恥ずかしい」とか「どうせ合格しない」と考えたら進歩はありません。(だって、そんな理由で高校受験や入社試験を敬遠したらおかしいですよ。)

準2級

影山 樹 (いつき) ③

3級

手塚 康晃 (こうき) ③ 山田 大生 (ひろき) ③

4級

倉持 奈央 (なお) ② 佐藤 愛望 (あいみ) ②
安藤 陽向 (ひなた) ① 芳賀 美紅 (みく) ①

3級

中村 風翔 (ふうと) ①

※○に数字は中学生の学年。()に数字は小学生の学年

本校会場に大会が開催されました

1月7日(土)～8日(日)

第13回 Sakuma Cup in Koriyama の様子



豪ざでカメラのレンズが曇っちゃいました。

次年度の飛躍につながるような取り組みを

昨年、特設合唱部と吹奏楽部には、運動部とは異なる感動を与えてもらいました。高嶋哲夫の「震災キャラバン」にこんな一節があったので、次年度の飛躍を期待して励ましの意味で紹介します。
○練習の始まる前の部員たちの挨拶だ。これがビシッとできる学校の吹奏楽部は優秀だ。(中略)顧問の教師が入ってくると、部員は何をしても顧問の前に並んで挨拶する。声が小さかったり、リズムが合っていないと、何度もやり直しをさせられた。「吹奏楽は全員で一つの空気を呼吸する」というのが顧問の口癖(くちぐせ)だった。
○「音楽ってのはな、楽器が音を出すんじゃないんだ。楽器を通して、人が人に語りかけるんだ。特に吹奏楽はそうさ。大勢の奏者の心が一つになって、初めて一つの音楽が生まれる。そして、それが人に伝わる。」
○「吹奏楽はソロとは違う。ソロは周りの楽器が、一つの楽器を支えて盛り上げる。吹奏楽は、お互いがお互いを支え合うんだ。それはみんなが周りの音色を聞くことから始まる。その中に自分がいかに自然に溶け込むかを考えなきゃならないんだ。」／(中略)己(おのれ)を殺して全体を生かす。己は全体の一部である。すべての思いが一つになって初めて一つの曲が生まれる。

視野を広く保てば、学校生活・社会生活にも当てはまりそうな気がします。この本は、東日本大震災をモチーフにした小説です。復興を期して被災地に生きることと上に紹介した部分(思想)との関連を考えて読むと、なかなか味わい深い作品です。